

令和7年度校内研究（意欲の向上グループ）

グループテーマ「モチベーションの維持をめざした学習活動の工夫と指導支援」

I 研究内容

- 1 児童生徒にとっての「他者」の捉えについて共通理解する。
- 2 前向きに取り組む、楽しくできる、取り組む意味を理解している等の姿につなげるため活動及び目標設定の工夫について実践を行う。
- 3 意識しながら（考えながら）学習活動に取り組むための工夫について実践を行う。

II 実践報告

1 生徒の実態について（本校男子生徒）

（1）病弱の観点からの情報収集

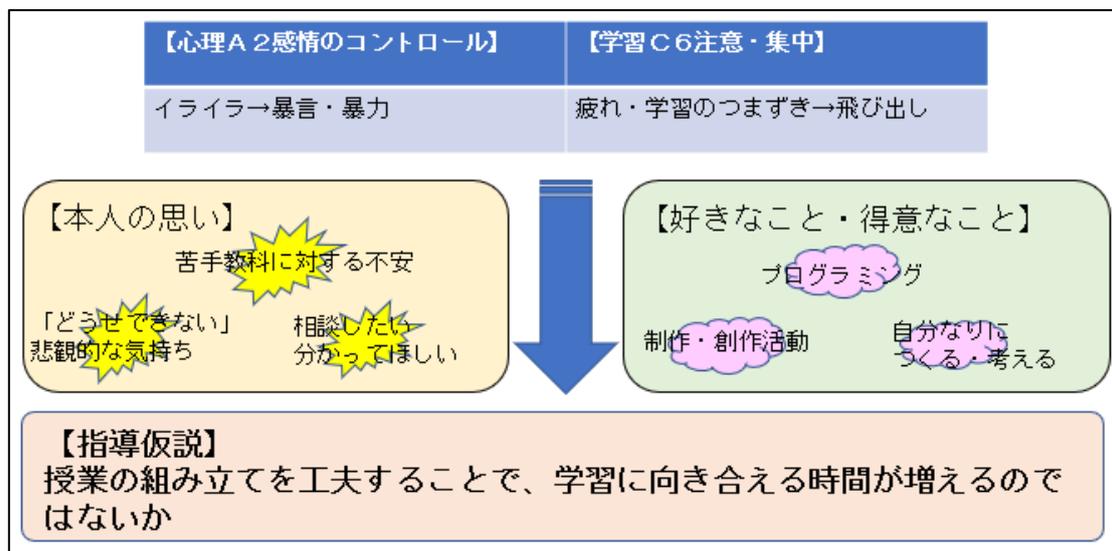
発達の状態に関する こと	身体 の健康と安全 運動・動作 情緒の安定 社会性の発達	<ul style="list-style-type: none">・中途覚醒し、そのまま寝付けなくなることがある。・力の加減が苦手である。・疲れた時や学習の難しさを感じたときに、教室を飛び出したり、暴言・暴力が出たりすることがある。・周りの大人に対して、自分の要求を通そうとする気持ちが強い。
本人の障がいの 状態等に関する こと	病気等の理解 自立への意欲 学習意欲	<ul style="list-style-type: none">・診断された障がい名について話すことがあるが、自身がもつ特性については受容が十分に進んでいない。・行動を振り返り、数日から数週先の見通しについて、教師と計画を立てることができる。・聞きながら書く等、2つの作業を同時に行うことが苦手である。

（2）自立活動の観点からの情報収集

区分名	項目	生徒の状態
心理的な安定	(1) 情緒の安定に関すること。 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。	<ul style="list-style-type: none">・他者に自分の気持ちを伝えることが難しく、暴言・暴力が出ることもある。・注意や集中を持続して、学習に取り組むことが難しい。
人間関係の形成	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。	<ul style="list-style-type: none">・衝動の抑制が難しい。

(3) R6年度の実践について

C o - M a M eを活用した実態把握、本人の思い、得意・苦手の現状を踏まえ、指導仮説を設定した。入学当初は成功経験の少なさから自信をもつことが難しく、悲観的・拒否的な行動・言動が多くみられた。そこで、まずは環境に慣れて安心し、得意なことで力を発揮したり、挑戦したりする気持ちを育てていくことをねらいとした。



① 安心と見通し・集中のための支援

主に教科学習において、①活動内容の希望について聞き取ること②教師が用意しておいた活動から取り組むことを選択すること 2点について、始業前に本人と確認して取り組んだ。取り組み始めの時期は、どの教科においても担任が聞き取りをすることが必要であったが、教科担任とも少しずつ相談の経験を積み重ねることができた。

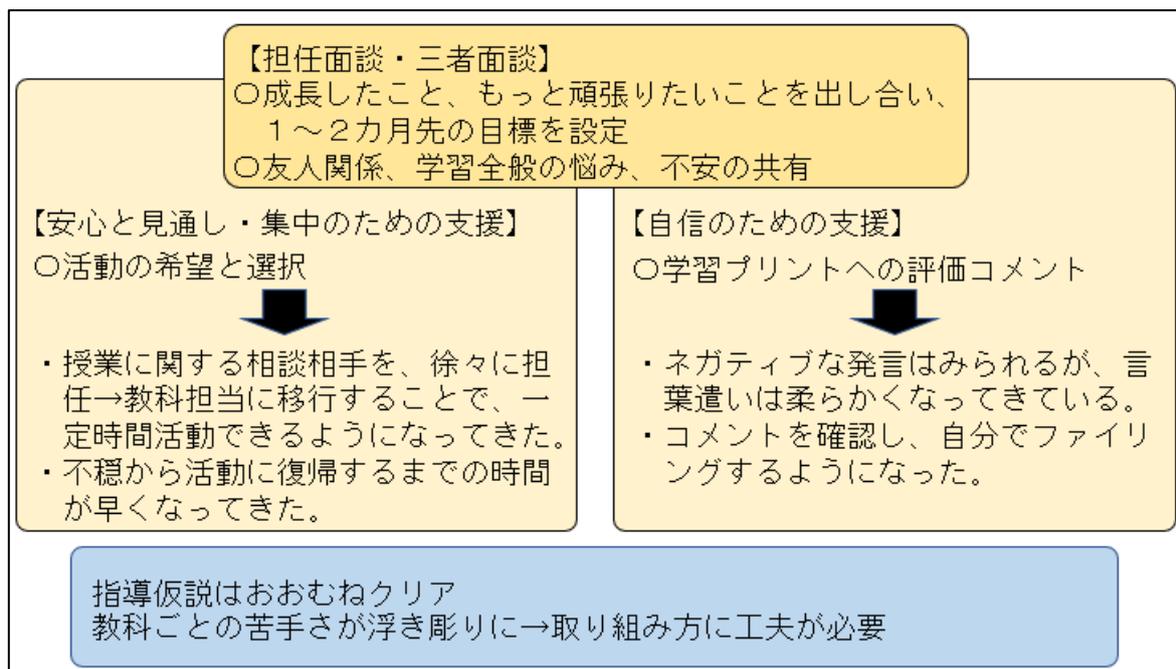
② 自信のための支援

学習活動に使用したプリントに、教師が評価コメントを記入しファイルに綴じることで、学習の積み重なりが視覚的に実感できるようにすることをねらいとして取り組んだ。思うように取り組むことができなかった時間のプリントは破り捨てたり、置きっぱなしにしたりすることが多かったが、回数を重ねるごとに教師がファイリングする様子を見ていたり、記入されたコメントに目を通したりする場面がみられるようになった。

③ 担任面談・三者面談

1～2カ月に1度のペースで、本人が手ごたえを感じたことやもっと頑張りたいこと等をことばにしたり、悩みを共有したりする時間を設けた。成果と課題を整理することで、1～2カ月先の目標を共通理解することができた。

①～③に継続的に取り組むことで、学習の環境に少しずつ馴染み、授業1時間につき20～30分間学習に向き合うことができるようになってきた。一方で、教科によっては向き合うことが難しくほとんど取り組めない様子もみられた。教科の特性に合わせた取り組み方の工夫について課題が残った。



(4) 今年度の実践について

① C o - M a M e の観点からの情報収集

R6年度に引き続き、アセスメントシートの記入、整理用シートの作成をとおして、生徒の教育的ニーズを以下の4点に絞った。

生徒の課題 (教育的ニーズ)	支援の時期	支援・配慮等のねらい
A9 自信	受容期～試行期	・職員が目線で達成できた点を称賛することで、できたことを自覚させ自信につなげる。
D4 多動性	試行期	・本人の状態に合わせた取り組みを促すことで、落ち着いて活動に向かう機会をふやす。
C6 注意・集中	受容期～試行期	・授業に集中する時間を延ばす。
C7 学習への意識	受容期～試行期	・教師の提案を受け、興味・関心を広げることができる。

さらに、各項目について具体的な生徒の様子と、有効と思われる支援の手立てを検討し整理した。教科学習に取り組む時間が増加した分、新たな課題がみえてきた。グループ研究会では、生徒は得意な活動であれば長時間の取り組みも継続できること、苦手なことや初めてのことに拒否感を示しやすいことを共有した。昨年度に続き、各学習活動において自信をつけるための仕組み作りを丁寧にするすることで、各教育的ニーズに良い効果をもたらすのではないかと考えた。

<具体的な生徒の様子と有効と思われる支援の手立て>

生徒の課題 D4 (試行期)	支援・配慮等のねらい	教育的支援・配慮
<ul style="list-style-type: none"> ・長時間座っていることが苦手なため、興味をもてない内容だと我慢できず、イライラを募らせる。立ち上がることもある。 ・待つことが苦手。暇を感じたり、イライラすることがあると、教室を飛び出し校内を徘徊する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の状態に合わせた取り組みを促すことで、落ち着いて活動に向かう機会をふやす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本来活動するメイン集団で、活動する機会をふやしていく。 ・活動する際のルール設定を事前に確認し、納得してから取り組む。

生徒の課題 A9 自信 (受容期～試行期)	支援・配慮等のねらい	教育的支援・配慮
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習内容が身につかず、挫折感が強い。そのため、目標を見いだせない。 ・課題が難しいと感じると、学習意欲が低下し教師に対して反抗的な態度をとる。 ・目標設定を高く設定しがちで、現状とのギャップにショックを受け、ネガティブになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の目線で達成できた点を称賛することで、できたことを自覚させ自信につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人とコミュニケーションをとっていない期間についても称賛する。→見守られている安心感や、できているという自覚につなげられるようにする。

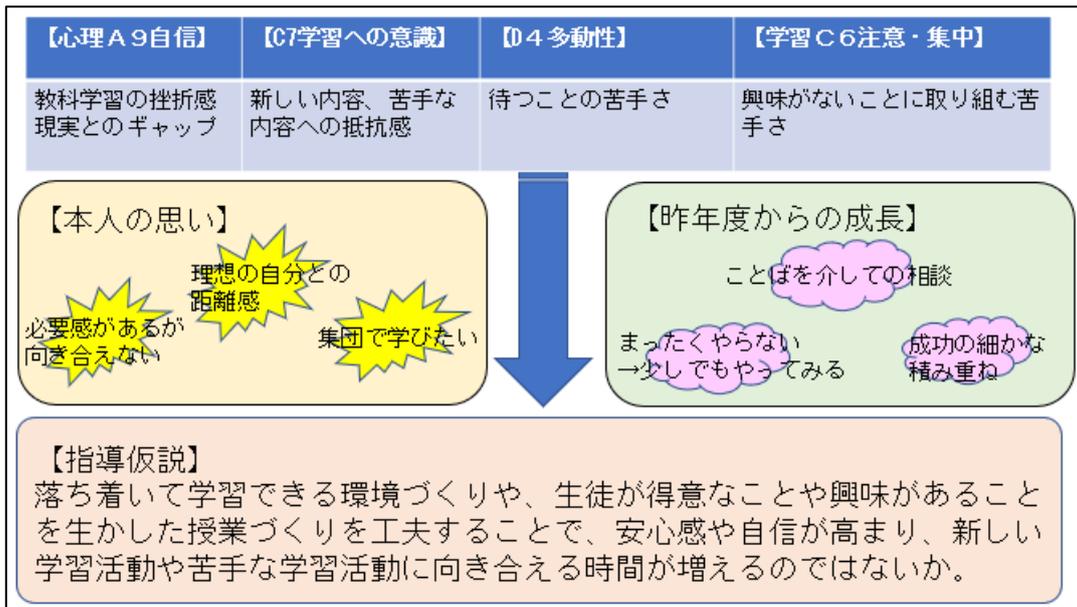
生徒の課題 C6 注意・集中 (受容期～試行期)	支援・配慮等のねらい	教育的支援・配慮
<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心をもつ分野がはっきりしている。 ・興味がない話や課題に気持ちを向けることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中する時間を延ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある内容（哲学、プログラミング等）と教科の内容をできるだけ関連させ、興味をもてるようにする。 ・授業の始めに内容を提示し、見通しをもてるようにする。

生徒の課題 C7 学習への意識 (受容期～試行期)	支援・配慮等のねらい	教育的支援・配慮
<ul style="list-style-type: none"> ・数学に拒否的な態度で、教室外へ出ていくことがあった。 ・飛び出しはなくなったが、苦手な学習内容には拒否的で、取り組むことができない。 ・新しい内容に挑戦しようとしめない。 ・教師に指示された、やり方を押し付けられたと感じると反抗的な態度をとり、学習活動を放棄する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の提案を受け、興味・関心を広げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さりげなく説明する。 ・見守りを中心とした支援を行う。 ・発言を否定せずに受け入れる。 ・苦手なことは無理をさせず、できそうな内容を用意する。 ・達成感を積み上げたうえで、新たな内容を少し加えることで、挑戦したことへの充実感を得られるようにする。

② 指導仮説の設定

「落ち着いた学習できる環境づくりや、生徒が得意なことや興味があることを生かした授業づくりを工夫することで、安心感や自信が高まり、新しい学習活動や苦手な学習活動に向き合える時間が増えるのではないか。」

昨年度から成長した点は、細かな成功体験を積み重ねたことで、前向きな発言や本人からの発信がみられるようになったことである。一方で、理想と現実のギャップが大きく、やるべきことだと分かっているも尻込みしてしまう課題もみえていた。そこで今年度は、環境調整と活動調整をしながら安心感と自信を育てつつ、苦手な教科や新しい学習活動にも向き合えることを目指し、指導仮説を設定した。



③ 具体的な取り組み

ア 教育的ニーズ達成評価シート

主に、教科学習における生徒の行動記録に活用した。

日にち 曜日	時間	活動内容	【評価】教育的ニーズ、支援・配慮等のねらい				エピソード・備考	評価規準
			A9自信 職員目標で達成できた点を称賛することで、できたことを自覚させ自信につなげる。	D4多動性 本人の状態に合わせた取り組みを促すことで、落ち着いた活動に向かう機会をふやす。	C7学習への意識 教師の授業を受け、興味・関心を広げることが出来る。	C6注意・集中 授業に集中する時間を延ばす。		
△日	(○)	C教科						【A9自信】 A:達成された課題（新しいこと、苦手なことを含む）に、前向きに取り組むことができる。 B:達成された課題（新しいこと、苦手なことを含む）に難関はあるが、取り組むことができる。 C:書を精読したり、活動を楽しんだりしながら、新しいことや苦手なことにも取り組むようになる。 D:達成された課題を振り返り、取り戻さない。
△日	(○)							【D4多動性】 A:集団や学習のまよいを解消し、落ち着いて活動に取り組むことができる。 B:まよりに対して短時間の休憩はみられるが、学習活動には取り組むことができる。 C:一歩前進したり、活動を中断しやすくなるが、10分ほど活動に取り組んでいる。

日にち、時間、活動内容を記入
 右枠「評価規準」に従い、授業中の生徒の様子についてA・B・C・Dで記入
 記録しておきたいエピソード等あれば記入

Excel のデータベースである。教科ごとにコピー＆ペーストして活用する。

シート右側に記載されている各教育的ニーズの評価規準を参考にしながら、本時の生徒の様子について4段階で評価し、記録を蓄積していく。教育的ニーズの評価規準については、グループ研究会で意見交換

しまとめたものである。内容は以下のとおりである。

教育的ニーズ達成評価シート（A9 自信）

評価	
A	提示された課題（新しいこと、苦手なことを含む）に、前向に取り組むことができる。
B	提示された課題（新しいこと、苦手なことを含む）に抵抗感はあるが、取り組むことができる。
C	量を調整したり、活動を中断したりしながら、新しいことや苦手なことにも取り組もうとする。
D	提示された課題を拒否し、取り組まない。

教育的ニーズ達成評価シート（C7 学習への意識）

評価	
A	提案を受け入れることができる。
B	提案を受け入れられないが、代案を出すことができる。
C	提案を受け入れられず代案も出せないが、学習への意識はある。
D	提案しても受け入れられず、学習を拒否する。

教育的ニーズ達成評価シート（C6 注意・集中）

評価	
A	30～50分程度、集中して授業を受けることができる。
B	15～20分程度取り組むことができる。
C	気が進まないながらも、やってみたができなかった。（5～10分程度）
D	5分以下、飛び出し、欠席

教育的ニーズ達成評価シート（D4 多様性）

評価	
A	集団や学習のきまりを意識し、落ち着いて活動に取り組むことができる。
B	きまりに対して拒否的な言動はみられるが、学習活動には取り組むことができる。
C	一部離席したり、活動を中断したりすることがあるが、10分以上活動に取り組んでいる。
D	活動への拒否感が強く、大部分の時間を離席したり、教室を飛び出したりする。取り組みが困難。

a 実践の様子（美術）

本人は入学当初から得意教科としており、意欲的に取り組む傾向があった。しかし、授業そのものへの抵抗感が強く、教師から提示された活動を拒否する場面があった。そこで、①なるべく短い時間で説明する②自分のやりやすい方法を選べるように、課題に対しての制作方法を複数提示する③主に見守りの支援を行い、質問があった場合に助言する 以上3点に留意し授業を展開した。その結果、少しずつ取り組む時間を延び、初めて取り扱う学習内容でも拒否感なく取り組むことができるようになってきた。

	A9 自信	D4 多動性	C7 学習への意識	C6 注意・集中	備考
1年前期	C, D	C, D	C, D	C, D	教科担任に対する拒否感が強く、授業に向かえる時間が短かった。
1年後期	C, D	B, C, D	B, C, D	B, C, D	好きな活動や興味のあることに参加できた。30分程度が限界。
2年前期	B, C, D	B, C	B, C	A, B, C, D	体調によるが、3～50分程度授業に集中することができるようになってきた。
2年後期	A, B, C	A, B	A, B	A	初めての内容に対しても拒否感なく取り組むことができるようになってきた。

b 実践の様子（数学）

入学当初、本人は得意教科としていた。しかし、いざ学習が始まると難しさから取り組めず、授業を拒否する場面が多くみられた。2年生になり、取り組み時間は微増したものの、「やるべきことだが取り組むのがしんどい」と日常的に葛藤を抱える様子がみられた。そこで、以下のとおり前期と後期で支援の手立てを分け、本人の取り組みの様子をみながら活動を調整した。その結果、以下の表のとおり、少しずつ取り組み方に変化がみられた。

<支援の手立て>

前期	<ul style="list-style-type: none"> ・自信のあることや失敗しない課題、興味をもてそうな題材の提示 ・教科書通りを求めず、取り組みそうな単元を本人と相談する ・向かい合っでの授業ではなく、横並び・L字で座る等の座席の工夫
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・少し頑張ればできるくらいの学習内容・学習量の調整 ・どこまでやればよいかを分かりやすく示し見通しをもたせる ・本人と目標を共有し、どうすればできるかを一緒に考える ・取り組めたことを認め、達成感や学力の高まりを実感できるようにする

	A9 自信	D4 多動性	C7 学習への意識	C6 注意・集中	備考
2年 夏休み前まで	C, D	B, C	C, D	B, C, D	・数学（内容、授業）に苦手意識があり、学習に取り組むことが難しい。 ・直感的に解ける問題は取り組めることがある。
2年 夏休み以降 ～11月	B, C	A, B	B, C	B, C	・提示された課題を受け入れ、やってみようとする姿が増えてきた。 ・葛藤しながら取り組むが、手順が重視される問題は諦めてしまうことがある。
2年 12月～	A, B	A	A, B	A	・内容を自分で選び、取り組めるようになった。 ・ネガティブな気持ちも言葉にできるようになったことで、苦手なことや新しい学習に対しても向き合うことができるようになった。 ・50分間集中して学習できる日が増えた。

イ 面談の実施

a 担任面談

教科学習と並行し、今年度も定期的に面談を実施し、生活と学習の振り返りとステップアップへの見通しを一緒に確認する取り組みを行った。（具体的な内容については省略する。）

ステップアップの見通しを視覚的に分かりやすく示すために、①階段目標（1ヵ月毎の振り返り） ②日々の授業時間記録（1週間毎の振り返り） の2点を作成し、面談時に活用した。疲れやすいタイミング（曜日・時間帯）、目標と現状の距離感等について、本人が確認するのに効果的だった。

階段目標の設定	
【目標】※記入する。	
1	
2	
最終的な目標を記入	
下段の内容が定着した時に、次の課題になると思われる内容を記入する。	
取り組み中で、取り組める場面が多い内容を記入する。	
現時点で、安定して取り組んでいる内容を記入する。	

目標記入：1ヵ月程度を目安に達成度を確認する。					
	月日 ()	月日 ()	月日 ()	月日 ()	月日 ()
登校時間					
1	上段：時間割を記入 下段：取り組み時間を記入				
2	例 国語 50分				
3	数学 30分				
4					
掃除					
5					
6					
下校時間					

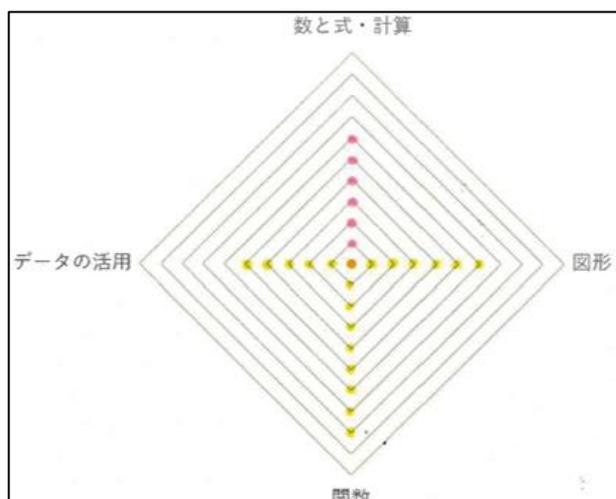
b 教科面談

担任面談時に、教科学習の目標を具体的にもつために学びの見通しがほしいと要望があった。数学では、面談の中で「身に付けるべき学習内容」を領域・項目毎に説明した。本人の取り組み状況に応じて「達成度を確認するためのグラフ」「自己理解のためのアンケート」を提示し取り組んだ。学習の順序を教科書通りにこだわらず、本人の意思を尊重したことで、前向きに取り組む姿勢につながった。また、達成度グラフの記入を通して、進んだ領域とそうでない領域が一目で分かり、抵抗感はあるが少しでも取り組もうとする姿勢がみられた。アンケートでも、全体的にポジティブな自己評価であった。

<学習内容の提示>

I 数と式・計算 ①かけ算、わり算のひっ算 ②分数の加減乗除 ③るい乗、素因数分解 ④正負の加減乗除 ⑤文字式の表し方 ⑥代入、分配法則 ⑦方程式 ⑧単項式と多項式 ⑨文字式の加法、減法 ⑩分配法則、 文字式の乗法、除法	II 図形 ①面積 ②図形の移動 ③図形に関する用語 ④作図 ⑤立体図形 ⑥円の面積 ⑦おうぎ形 ⑧多角形の内角の和 ⑨同位角、錯角 ⑩合同な図形
III 関数 ①変域 ②関数の式 ③比例 ④比例のグラフ ⑤反比例 ⑥反比例のグラフ ⑦一次関数 ⑧一次関数のグラフ ⑨一次関数の式を求める ⑩比	IV データの活用 ①度数分布表 ②ヒストグラム ③相対度数 ④代表値 ⑤データの活用 ⑥確率 ⑦確率II ⑧四分位数 ⑨箱ひげ図 ⑩分布の傾向

<達成度を確認するためのグラフ>



<自己理解のためのアンケート>

数学 自己評価アンケート

1 4つジャンルや10個の項目で、学習する内容が わかりやすくなりましたか？

いいえ どちらでもない はい

.....★.....

2 自分がやるべき内容に、見通しをもつことができましたか？

いいえ どちらでもない はい

.....★.....

3 新しい学習や苦手の学習に取り組むことができましたか？

いいえ どちらでもない はい

.....★.....

4 達成感を感じることができましたか？

いいえ どちらでもない はい

.....★.....

ウ ケース検討会

12月8日（月）に実施した。他研究グループのメンバーを交え、実践の報告と意見の交流を行った。成果と課題は以下のとおりである。

成果	<ul style="list-style-type: none">・各教科における授業の改善・工夫と面談における相談を並行して行ったことで、出来なかったことに向き合うことができるようになってきた。・安心・見通し・集中の支援を通して、自信をもたせる仕組みづくりを継続することが大切である。
課題	<ul style="list-style-type: none">・高校へのステップアップを見据える時期に差し掛かっている。よりよい進路選択に向けて、様々な状況を想定しておく必要がある。・本人－教師の間で、安心して接することができる関係を広げていく。

Ⅲ 2年次研究の成果と課題

(1) 成果

- ① モチベーションの維持のために継続してきた指導・支援が、新たな目標設定につながった。
- ② 本人が具体的な目標を立てたことにより不安・悩みが軽減し、授業の取り組みに対する意識が高まった。

(2) 課題

- ① 卒業後の学びに向けて、担任－本人の関係から周りの教師との関係構築へと広げていく必要がある。
- ② 2年間実践した「安心・見通し・集中→自信」のための指導・支援を継続していくために、支援者間の連携を丁寧に行う。